

「いろいろなストーブ」（コラム 博物館の昔のどうぐ【拡大版】）

読みもの・コラム

投稿者：

Posted on : 2022-3-31 16:00:00

(13) いろいろなストーブ

今回は「ストーブ」を取り上げます。時代と共に形や燃料が変遷する暖房器具はとても興味深く、ことぶき大学山部校の学生さんなどからの聞き取り調査もしたため、内容もりだくさんとなりました。いつもの紙面では書ききれないため拡大版としています。

このテーマに限らず、聞き取り調査は隨時行っていますので、機会がありましたらぜひご協力ください。

今月の収蔵物 番外編 ストーブ

沢山収蔵されているストーブがどんな物なのか…温かいのか…いつ使っていたのか…気になり、色々な方（主にことぶき大学生）に話を聞きました。そんなストーブについてのエピソードを紹介したいと思います。

火を燃すと、煙を吐き出す。これがストーブだ。煙を吐き出さない、床暖房用のストーブなどもある。

タコストーブ 汽車にあったよ！客車同にあって、乗車したら、まず温まってから席に座っていたよ。

薪ストーブ 明治中期頃から使用され始めた。別名、ひょうたんストーブ、亀の子ストーブとも言われた。現代でも馴染みのあるストーブ。

だるまストーブ 学校でお弁当や牛乳を温めたよ。ストーブに近い子は真っ赤な顔をしてたよ。

やぐらこたつ あったかくていつも布団に入っていた。でも、寝相が悪くて戻の中に足入れて火傷したな～。

ルンペーンストーブ どんな悪い石炭でも燃えるので良かったよ。工場とかでよく見かけたね。

皆さんのお話を伺うと、子供の時の仕事は石炭運びや、小枝集めなど必ずやっていたようで、頭が下がります。それでも遊びに夢中になり、仕事を忘れて親に怒られて泣いてしまったことも…。日常的にストーブでは料理を煮炊きに利用し、天板の上ではスルメ・干し芋・ニンニク・鰯なども焼いたそうです。

私がとても興味を持ったのが「なまこ」を焼いたというエピソードです。初めて聞いた言葉に「えっ？」と思い、後で調べてみました。澱粉の乾燥する前のものを固めて焼くと一枚づつはがれ、それを食べるそうです。いずれ試してみたいと思います。漢字では「生粉」と書くそうです。

今回調べていて感じたのが、ストーブ自体の思い出より、ストーブにまつわる日常の思い出の方が沢山出てきた事。その当時の様子が思い起こされ、ほっこりした気持ちになりました。昔の道具にまつわるお話を教えて下さる方がいらっしゃいましたら、くまげら園集担当までご連絡ください。

ストーブ類はテーマ5「北国の生活」（2階）に展示されています（「ダルマストーブのみテーマ7「教育のあゆみ」に展示）。

この記事はくまげら通信4月号に掲載しました。